

シンポジウム

「地方史誌研究の現在2」

2023.3/13 (月) 13:00~ 於 Zoomオンライン会議

+ 早稲田大学戸山キャンパス

司会：近藤一成（早稲田大学名誉教授）

基調報告（小二田章：企画主催者）

報告Ⅰ：

「朝鮮後期官撰邑誌の編纂概要」

（李在斗：慶北大学校嶺南文化研究院）

※日本語レジュメ・質疑通訳あり

コメント：高井康典行（大元大明研究会会員）

報告Ⅱ：

「前近代におけるベトナムの地方誌の編纂史について
一漢・喃研究所が所蔵している資料を中心に」

（Nguyen Thi Oanh：タンロン大学タンロン認識教育研究所）

コメント：吉野正史（大元大明研究会会員）

報告Ⅲ：

「「年鑑 (salname)」から「地誌 (khitat)」へ：伝統回帰か、刷新か」

（大河原知樹：東北大学大学院国際文化研究科）

コメント：唐澤晃一（香川大学教育学部）

報告Ⅳ：

「中世北ヨーロッパにおけるキリスト教的歴史記述の移転と
中央との接続」

（成川岳大：立教大学文学部）

コメント：森山央朗（同志社大学神学部）

総括コメント1（須江隆：日本大学生物資源科学部）

総括コメント2（白井哲哉：筑波大学情報メディア学科）

参加希望の方は右のフォームから事前にご連絡下さい。

（※対面会場は可能な場合、後日参加希望者に連絡します）

問い合わせ先：小二田章

a.konita805@aoni.waseda.jp



※本会は、

2022年度の東方学会「若手研究者の研究会等支援事業」、JFE21世紀財団アジア歴史研究助成、科学研究費助成事業（基盤研究（C）「地方史誌研究の基盤形成」）の支援を受けています。

【スケジュール】

13:00～ 開会・基調報告

13:30～ 報告Ⅰ：

14:00～ コメント・質疑応答

14:10～ 報告Ⅱ：

14:40～ コメント・質疑応答

14:50～ （ティーブレイク）

15:00～ 報告Ⅲ：

15:30～ コメント・質疑応答

15:40～ 報告Ⅳ：

16:10～ コメント・質疑応答

16:20～ （休憩・質問用紙回収）

16:30～ 総括コメント1：

16:50～ 総括コメント2：

17:10～ 質疑応答・報告者討論

18:30～ （閉会予定）

「地方史誌研究」要旨：

「地方史誌」（歴史を中心に行政・地理などを項目別に記した総合的書物）は、近世東アジアの各地域で共通して成立した。このアジア地域の史料研究を敷衍して、世界史上の「地域の歴史的書物を編纂し必要とするようになる背景」を比較的に検討する議論と環境の形成、言い換えれば「地方史誌学」の確立を図る。そのために、「地方史誌」の学界における議論基盤を構築し、継続的に議論が行われる状況をつくることで、最終目標である「地方の歴史はなぜ編まれるのか」を（地域を問わない）学界全体で共有し考える端緒としたい。